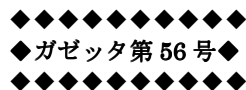


メールマガジン「ガゼッタ」まとめ(12)

第 56 号～第 60 号 (2014 年 3 月 5 日～4 月 15 日配信)

配信した「ガゼッタ」No.56-60 のまとめです。書式と一部表記を変更して図版を取り込み、pdf にしました。



◆ガゼッタ第 56 号◆

ガゼッタ第 56 号をお届けします。

本号は、「ニッポンハムから“ロッシーニ風ハンバーグ”新発売!」「パルマの《結婚手形》で日本人が大活躍!」
「新譜 2 点: グレトリ《ギョーム・テル》とロッシーニ《オリー伯爵》」をお届けします。
『ロッシニアーナ』第 34 号は今週末から会員のみなさまに発送いたします。

3 月 21 日の例会案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

▼ニッポンハムから“ロッシーニ風ハンバーグ”新発売!▼

ニッポンハムから「ロッシーニ風ハンバーグ」が 2 月 10 日に発売されました。寝耳に水、というわけではなく、実は昨年ニッポンハムの某部署の方から「ロッシーニ風」の名称使用に関してお問い合わせをいただいた経緯があります。「付加価値が高く、家庭で作ることが難しい高級ハンバーグ」のプレミアム商品開発の一環で、「牛タンシチューハンバーグ」も同時発売されました。希望小売価格は、どちらも 390 円 (税込)。

ニュースリリースはこちら→

<http://www.nipponham.co.jp/news/2014/20140121-2/>

単に名称ではなくフォアグラとトリュフを使い、「フォアグラ (ハンバーグ中 3.2%) の旨みをハンバーグに包み込み、トリュフ (ソース中 1.0%) を加えた濃厚デミグラスソースで煮込みました」とのことです。

製品詳細はこちら→ http://www.nipponham.co.jp/products/processed_foods/hamburger/11208/

筆者はまだ食べていないので……試供品をもらったわけではありません……味や出来栄えに関して定かではありませんが、ロッシーニ・ファンは試さずにいられませんね。



▼パルマの《結婚手形》で日本人が大活躍!▼

これはもう、快挙と言うほかありません。パルマの王立劇場が 2 月 21、23、25、28 日に上演したロッシーニの《結婚手形》、トビア・ミル以外のダブルキャスト 10 人のうち 6 人が日本人歌手で好評を得たのです。キャストは、トビア・ミル: Marco Granata、ファンニ: Nao Yokomae/Kanae Fujitani (25 日)、エドアルド・ミルフォルト: Lorenzo Caltagirone/Yasushi Watanabe (25 日)、スルック: Fumitoshi Miyamoto、Hideya Masuhara (25 日)、ノルトン: Andrea Pellegrini/Adriano Gramigni (25 日)、クラリーナ: Federica Cacciatore/Nozomi Kato (25 日)

詳細はレージョ劇場のサイトをご覧ください。

<http://teatroregioparma.it/events/2013-2014/la-cambiale-di-matrimonio-1? locale=en>

ヒロインのファンニを歌った横前奈緒さんは、昭和音楽大学を一昨年卒業してイタリア留学しました。それから 1 年ちょっとでパルマの劇場のオーディションに受かったのですから驚きです。実は、彼女が学生時代に金井紀子さんのレッスンに通っていた関係で筆者も面識があります。その頃から逸材と思いましたが、こんなに早くデビューの時が来るとは想像もしませんでした (しかもパルマの王立劇場でロッシーニのヒロインとは!)

初日が好評を得て、横前さんについても「声が均質で、明るく、清らか (Voce omogenea, chiara e pulita)」と評され、スルックの宮本史利さんも絶賛されています (ちなみに宮本さんは 2010 年 ROF 若者公演《ランスへの旅》でトロンボノク男爵を歌いました)。将来が楽しみです!

舞台写真付きのオペラ批評サイトを二つご覧ください (イタリア語)。

<http://www.operaworld.es/italiano-la-cambiale-di-matrimonio-rossini-parma/>

<http://www.operaclick.com/recensioni/teatrale/teatro-regio-di-parma-la-cambiale-di-matrimonio>

この《結婚手形》プロダクションは、3 月 28 日と 30 日にレッジョ・エミーリアのヴァッリ劇場でも公演を行います。こちらのサイトをご覧ください→ <http://www.iteatri.re.it/Sezione.jsp?idSezione=3019>

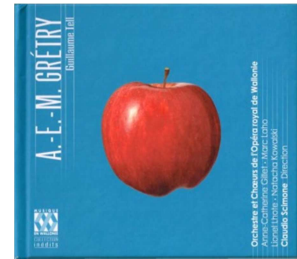
▼新譜 2 点: グレトリ《ギョーム・テル》とロッシーニ《オリー伯爵》▼

◎Grétry: Guillaume Tell

グレットリ：歌劇《ギョーム・テル》

クラウドイオ・シモーネ指揮ワロン王立歌劇場管弦楽団&合唱団 マルク・ラホ
(T/ギョーム・テル)、リースベト・デヴォス (S/マリー) ほか

録音：2013年リエージュ (ライブ) Musique En Wallonie MEW1370 (CD)



グレットリ作曲のオペラ・コミック《ギョーム・テル (Guillaume Tell)》は、ロッシーニに先立って作られたこの題材による作品ですが、詳細を知り得ませんでした。ところが嬉しいことに昨年リエージュで上演され、その録音が発売の運びとなりました。

初演はフランス革命勃発から2年後の1791年4月9日、パリのコメディニイタリエンヌ (サル・ファヴァール) で行われました。全3幕、物語はロッシーニの作品とある程度共通しています。

第1幕：

テルの娘がメルクタルの息子と結婚することになり、村人の祝福を受ける。そこに、テルの老いた父がゲスレスへの挨拶を拒んでオーストリア兵に暴行され、盲目になったとの報せが舞い込む。

第2幕：

ゲスレルへの服従を拒んで死刑を言い渡されているテルは、息子の頭に乘せたリンゴを射るよう強いられる。テルは見事にリンゴを射落とすが、もう1本矢を持っていることが判り、逮捕される。

第3幕：

嵐の中、テルはオーストリア軍の舟から脱出し、戦いの狼煙をあげる。そして最後の闘いに挑んでゲスレルを矢で倒し、自由を讃えるスイス人の合唱が湧きあがる……

序曲の冒頭で「あっ！」と驚きます。ロッシーニ《ギョーム・テル》フィナーレの主題そっくりではありませんか！ 種明かしをすれば、これはスイスの民族的素材「ラン・デ・ヴァシュ (Ranz des vaches)」の旋律で、ジャン＝ジャック・ルソーの『音楽事典』に楽譜が「ル・ラン・デ・ヴァシュと呼ばれるスイスのエール」として掲載されています。グレットリもロッシーニも、これをスイスの代表的な音楽としてオペラに取り入れたのですね。

音楽を台詞で繋ぐ形式のオペラ・コミック。音楽も18世紀末のもの。ロッシーニのイメージで聴くとがっかりするかもしれませんが、第2幕フィナーレにはグルックのトラジェディ・リリックの影響も聴き取れます。満足度が高いとは言えなくても、ロッシーニに先立つ《ギョーム・テル》というだけで聴いて損はありません。

日本に入荷するのはまだ先らしく、HMVなどのサイトには載っていません。いましばらくお待ちください (せっかちな筆者は、先月発売と同時にフランスから取り寄せました)。

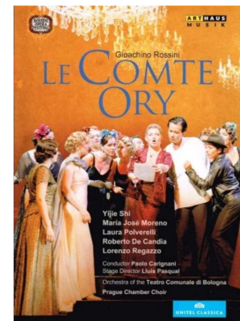
◎Rossini: Le Comte Ory

ロッシーニ：歌劇《オリー伯爵》(2009年ROF上演映像)

ルイス・パスクワル (演出) パオロ・カリニャーニ指揮ボローニャ市立劇場管弦楽団、
プラハ室内合唱団 マリア・ホセ・モレノ (S/アデル)、シー・イージェ (T/オリー)、
ロレンツォ・レガッツォ (Br/家庭教師) ラウラ・ポルヴェレリ (Ms/イゾリエ) ほか

収録：2009年8月ペーザロ Arthaus Musik 101649 (DVD) 及び 108063 (BD)

日本語字幕付き

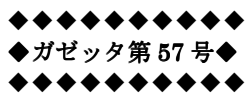


2009年ロッシーニ・オペラ・フェスティヴァル《オリー伯爵》の上演映像です。パスクワルの演出はフローレス主演2003年が初出で、2009年のそれは中国人の新進テノール、シー・イージェの起用が話題になりました。その成否はさておき、日本語字幕付きとあってお勧めです。

過去発売された1999年グライントボーン音楽祭、フローレス主演の2011年メトロポリタン歌劇場に続いて3つ目の上演映像……と思ったら、来月にはバルトリ出演のチューリヒ歌劇場の上演映像も発売されます。この4つを見比べると、それぞれの特徴がより良く理解できるでしょう。

追記：入荷の遅れた「ロッシーニ序曲全集第4集」は次号で紹介します。

(2014年3月5日 水谷彰良)



◆ガゼッタ第57号◆



ガゼッタ第57号をお届けします。

本号は、『『ロッシニアーナ』第34号発行!』、「チューリヒ歌劇場《オリー伯爵》に関する報告」、「新譜：ロッシーニ序曲全集・第4集」、「馬ヒレとフォアグラのロッシーニ風」をお届けします。

3月21日の例会案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

▼『ロッシニアーナ』第34号発行！▼

昨年末に発行予定だった日本ロッシニア協会紀要『ロッシニアーナ』第34号が遅れに遅れて3月10日に完成し、発送業務を終えました。海外在住の会員は、来週の到着となります。

第34号は「日本におけるロッシニア受容の歴史——明治元年から昭和43年まで(1868~1968年)」など、読み応えのある文章がありますのでご一読ください。筆者の文章が大半ですが、柳川文雄さんの作成した「2013年(平成25年)日本におけるロッシニア作品の主な上演記録」も掲載されています。

実はデ・サンクティスによるロッシニア訪問記も会員Tさんの翻訳で掲載を予定したのですが、解題をきちんと付けたいと考え、次号の掲載にしました。第35号は原稿の締め切り10月末、12月上旬の発行としますので、会員の皆さまの寄稿をお願いいたします。

『ロッシニアーナ』第34号の表紙と目次はこちら→ <http://societarossiniana.jp/publication2012-.html>



▼チューリヒ歌劇場《オリー伯爵》に関する報告▼

2月15日のメルマガ第54号に「《オリー伯爵》の従来版と批判校訂版の違い」と題した文章を載せ、このオペラの批判校訂版が2011年1月にチューリヒ歌劇場で初使用され、2012年9月に来日した校訂者ダミアン・コラスが筆者に、「チューリヒ歌劇場は私の批判校訂版を使用しながら、肝心なところを従来版に戻した。だから批判校訂版による世界初演はまだ行われていない」と話したことを書きました。

パリのオペラ座が初演用に作成した筆写譜を調査したコラス氏は、第1幕フィナーレのソリストが初版譜=現行版の7人ではなく13人であり、第2幕フィナーレも現在より長いヴァージョンだったことを発見しました。筆者はこの話を基に、チューリヒ歌劇場が第1幕フィナーレを従来版の7人に戻したものと想像し、第2幕フィナーレに関してはもうすぐDVDが発売されるのでそれを観て報告したい、と書きました。

で、数日前に届いたDVDを観たら、なんと第1幕フィナーレはソリスト13人、第2幕フィナーレも初めて聴くちょっと長いヴァージョンではありませんか！つまり、批判校訂版で明らかになった新事実と演奏内容が符合しているのです。ではコラス氏が話した「チューリヒ歌劇場は肝心なところを従来版に戻した」は何を指すのか？……これについては、後日発売されるベーレンライター版を見ないとなんとも言えません。

筆者は海外から直輸入しましたが、HMVやタワーレコードは3月18日発売としていますので、ここでは二つのフィナーレに関する報告にとどめ、詳細は次号で明らかにさせていただきます。なお、HMVやタワーレコードのサイトにDVD2枚組とありますが、筆者に届いたのはDVD1枚でした！

▼新譜：ロッシニア序曲全集・第4集▼

◎Rossini: Complete Overtures • 4 (C.Benda / Prague Sinfonia Orchestra)

ロッシニア序曲全集・第4集 《セビーリヤの理髪師》《イタリアのトルコ人》《リッチャルドとゾライデ》《トルヴァルドとドルリスカ》《アルミーダ》《オリー伯爵》《ピアンカとファリエーロ》の序曲と《シンフォニア 変ホ長調》

クリスティアン・ベンダ指揮プラハ・シンフォニア管弦楽団

録音：2011年9月&2012年5月プラハ [Naxos 8.572735] (海外盤)



前号で紹介できなかったロッシニア序曲全集の新譜(第4集)です。第3集までと同様、とくに褒めるところのない「普通」の演奏で、合奏精度もイマイチで指揮者ベンダにロッシニア的な才気があるわけでもない……新録音による廉価な全集、と言ったら身も蓋もないですね。ちなみにNaxosのロッシニア序曲全集はこの第4集で完結です。めでたし、めでたし……もう買う必要がありません(笑)。序曲として独立していない導入曲の前奏曲も演奏し、終わりが尻切れトンボというのも笑えます。

▼「馬ヒレとフォアグラのロッシニア風」▼

メルマガ前号に「ニッポンハムが〈ロッシニア風ハンバーグ〉を発売」と書きました。書いた責任上、食べてみれば……と思って探しましたが、どのスーパーでも見かけません。あれれ？

「ニッポンハムに問い合わせればいいじゃない」と言われそうですが、それでは「やっと見つけた！」との喜びを得られません。そこでネット検索すると、探しのものとは違う「ロッシニア風」ばかり出てきます。そんななか「これは面白い！」と思ったのが、浅草の馬肉専門レストラン「マサシ」が昨年秋に看板メニューとして採用した「馬ヒレとフォアグラのロッシニア風」でした。

「鮮馬ステーキの最高峰！！馬ヒレとフォアグラのロッシニア風」の宣伝文句に、「ウマそうだから食べに行かない？」と家人に言ったら拒否されました……ウマが合わない、なんちゃって。

他にも種々の論考や書評が載っていますが、メルマガの文章にアクセントが使えないので、『ラ・ガゼッタ 第23号』の目次はドイツ・ロッシェニ協会 HP でご覧ください。

目次はこちら→ http://www.rossinigesellschaft.de/d02_publicationen_i.htm

▼チューリヒ歌劇場《オリー伯爵》のDVD&BD 発売！▼

◎Rossini: Le Comte Ory

ロッシェニ：歌劇《オリー伯爵》（2011年12月チューリヒ歌劇場上演映像）

モーシュ・ライザー&パトリス・コリエ（演出） ムハイ・タン指揮ラ・シンティツラ管弦楽団、チューリヒ歌劇場合唱団 チェチーリア・バルトリ（Ms/アデル）、ハビエル・カマレナ（T/オリー）、レベカ・オルベラ（S/イゾリエ）、ウーゴ・グアリアルド（Br/家庭教師）ほか

収録：2011年12月31日チューリヒ Decca 0743467（DVD）及び 0743468（BD）
[海外盤。日本語字幕無し]



前号に記した2011年12月チューリヒ歌劇場の上演映像です。批判校訂版の初使用、バルトリ演じるアデル、古楽器オーケストラの伴奏、ライザー&コリエのモダン演出、35歳のメキシコ人テノール、カマレナのオリーなど見どころの上演で、日本語字幕が無くても充分楽しめます。個人的にはイゾリエを歌うオルベラが美人じゃなく、歌手としても格下で不満ですが、ま、そこは我慢しましょう。

ロッシェニ・ファンなら観て損はありません。まずはご覧あれ！

▼ROF 友の会の優先予約開始▼

今年のROFチケットですが、友の会（Amici e Sostenitori）メンバーの優先申し込みが昨日（3月24日）開始されました。友の会のメンバーには直接連絡が行っているはずなので、メルマガでの告知は省略しました。

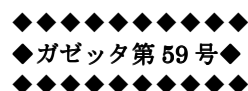
一般申し込みは4月28日から6月13日まで。こちらは郵便、ファクス、Eメールによる受付で、電話受付は7月1日から25日までとなります。

詳細や問い合わせ先は、次のROFサイトをご覧ください。

英語版→ <http://www.rossinioperafestival.it/?lang=eng&IDC=148>

イタリア語版→ <http://www.rossinioperafestival.it/?IDC=148>

（2014年3月25日 水谷彰良）



ガゼッタ第59号をお届けします。

東京は桜が満開、すっかり花見の季節ですね。ロッシェニと花……一見なんの関係もないようですが、実はロッシェニの名前を冠した椿（Camellia）の品種が19世紀に作られました。それが「Camellia Giovacchino Rossini」です。図版を含む紹介文を協会ホームページ「ロッシェニ図像学」のコーナーに掲載しますので、ご覧ください。

本号は、「ゼツダ指揮、東京フィル演奏会（5月16・18日）に日本ロッシェニ協会会員チケット割引実施！」「辻昌宏・著『オペラは脚本（リブレット）から』刊行！」「2013年ROF《ギョーム・テル》が国際オペラ賞にノミネート！」をお届けします。

4月27日の例会案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

▼ゼツダ指揮、東京フィル演奏会（5月16・18日）に日本ロッシェニ協会会員チケット割引実施！▼

新年早々のメルマガ第50号に速報したアルベルト・ゼツダ指揮、東京フィルハーモニー交響楽団演奏会の続報です。

◎2014年5月16日（金）19:00開演（18:30開場）サントリーホール、大ホール

◎2014年5月18日（日）15:00開演（14:30開場）Bunkamura オーチャードホール

プログラムは次のとおり（両日共通）

- ・シューベルト：交響曲第3番 ニ長調 D.200
- ・ロッシェニ：カンタータ『ジャンヌ・ダルク』
- ・マリピエロ：交響曲第2番『悲歌』
- ・ロッシェニ：歌劇『ウィリアム・テル』より第1幕「パ・ド・シス」、第3幕「兵士の踊り」
- ・ロッシェニ：歌劇『セミラミデ』序曲

5月16日の案内はこちら→ http://www.tpo.or.jp/concert/20140516_01.php

▼天羽明恵オペラペラペラコンサート：《愛の妙薬》ハイライト、日本ロッシェニ協会会員割引実施！▼

みなさまご存じの素敵なソプラノ、天羽明恵さんによるオペラペラペラコンサート「ドニゼッティ：オペラ《愛の妙薬》ハイライト」が5月17日（土）、府中の森芸術劇場ウィーンホールで開催されます（15:00開演）。ナビゲーターは朝岡聡さん。

「オペラの名曲をハイライトでご堪能いただきながら、“ペラペラ”（＝ナビゲート・解説）で見どころや聴きどころ、登場人物の心情、オペラとお芝居の違いなどをご紹介します！オペラ通の方はもちろん、オペラ初心者の方にもお楽しみいただけます」という催しです。

本日から一週間、期間限定で日本ロッシェニ協会会員チケット割引も実施します（お申し込みの方法は下記）。

◎オペラペラペラコンサート ドニゼッティ：オペラ「愛の妙薬」ハイライト

（府中市制施行60周年記念。府中の森クラシックコレクション）

日時：2014年5月17日（土）15:00開演

会場：府中の森芸術劇場 ウィーンホール

出演：アディーナ：天羽明恵（ソプラノ）、ネモリーノ：上原正敏（テノール）、バルコーレ：須藤慎吾（バリトン）、
ドゥルカマラー：今尾 滋（テノール/バリトン）、ナビゲーター：朝岡 聡、ピアノ：古藤田みゆき

料金：【全席指定】4,000円

公演チラシはこちら→ http://www.fuchu-cpf.or.jp/theater/play/20140517_amou_chirashi.pdf

公演詳細はこちら→ http://www.fuchu-cpf.or.jp/theater/play/20140517_amou.html

日本ロッシェニ協会会員とこのメルマガ配信登録者は、チケット1割引（1枚3,600円）にてお求めいただけます。日本ロッシェニ協会HP（<http://societarossiniana.jp/>）右上「お問い合わせ CONTACT」からのメールに、「お名前、ご住所、電話番号またはケータイ番号、お求め枚数」をお書きの上、お申し込みください。本日4月15日（火）正午から4月22日（火）正午まで一週間の期間限定です。

お申し込みのメールはまとめて天羽さんの関係者に転送し、チケット発送は月末からとなりますのでご了承ください。代金の支払い方法は、お申込みいただいた方に追ってお知らせいたします。

▼NHKが藤原歌劇団《オリイ伯爵》を《オリイ伯爵》の題名で放送！▼

去る3月23日（日）の深夜0時20分よりNHKのBSプレミアムにて、1月31日の藤原歌劇団公演《オリイ伯爵》が《オリイ伯爵》の題名で放送されました。NHKはかつて1997年グランドボーン音楽祭公演を《オリイ伯爵》として何度か放送し、藤原歌劇団も同じ題名で上演したのですから当然《オリイ伯爵》かと思いきや、さにあらず。

「オリイ」の表記が不適切であることは、藤原歌劇団の公演が発表されてすぐにメルマガ第18号（2013年2月15日配信）で指摘し、第22号（同年3月25日配信）の追記にも書きました。それゆえ今回NHKが過去の放送や藤原歌劇団の公演名と異なる《オリイ伯爵》を採用した背景にメルマガの指摘があるのでは、と考える人もいますが、これについては「言わぬが花」としておきましょう（笑）。

その結果、困ったことになったのが藤原歌劇団です。母体である日本オペラ振興会のサイトはNHKの放送を告知する“藤原歌劇団公演「オリイ伯爵」TV放送のおしらせ”の中で題名と役名に「オリイ伯爵」を使用し、ツイッターでは自分たちの公演を「オリイ伯爵」と称する始末……なんだか可哀そうですね。でもいけないのは、CD、音楽雑誌、日本ロッシェニ協会などが使用する「オリイ伯爵」をあえて使わず、「オリイ伯爵」を選んだ当事者です。CD「超絶 ロッシェニオペラの魅力 Bravi! Vol.2」の曲目表記も《オリイ伯爵》、上演当日の字幕は「オリイ」と「オリイ」が混在していました……残念！

日本オペラ振興会“藤原歌劇団公演「オリイ伯爵」TV放送のおしらせ”はこちら→

<http://www.jof.or.jp/news/news140307.html>

日本オペラ振興会のツイッター（3月23日）はこちら→

https://twitter.com/JOF_opera/status/447575141082361856

▼お薦め演奏会：フィリップ・ジャルスキー&ヴェニス・パロック・オーケストラ（4月25日）▼

ロッシェニとは何の関係もありませんが、ベルカント愛好家垂涎のフィリップ・ジャルスキー&ヴェニス・パロック・オーケストラによるコンサートをお薦めしておきます（4月25日、東京オペラシティ コンサートホール）。

「伝説のライバル フェリネリ&ボルボラ VS カレスティーニ&ヘンデル」がテーマで、ボルボラとヘンデルが二人のカストラート（フェリネリとカレスティーニ）のために書いたアリアを現代最高のカウンターテナー／フィリップ・ジャルスキーが歌います。

日時：2014年4月25日 [金] 19:00

会場：東京オペラシティ コンサートホール

出演：フィリップ・ジャルスキー（カウンターテナー）、ヴェニス・バロック・オーケストラ
料金：（全席指定・税込）S:¥9,000 A:¥7,000 B:¥5,000 C:¥3,000

曲目：（順不同）

ボルボラ：歌劇『ジェルマーニコ』序曲、歌劇『アリアンナとテーゼオ』より「天をご覧なさい」、歌劇『身分の知れたセミラーミデ』より「このように慈悲深く貴方の唇が」、歌劇『ポリフェーモ』より「至高のジョーヴェよ」「愛しの人を待っていると」、ヘンデル：《12の合奏協奏曲》第4番、第1番、歌劇『アルチーナ』より「優しい情愛がわたしの気をそそる」「いるのはヒルカニアの」、歌劇『オreste』より「凄まじい嵐にかき乱されながらも」、歌劇『アリオダンテ』より「戯れるがよい、不実な女め」

詳細とチラシは東京オペラシティのサイトをご覧ください→

<http://www.operacity.jp/concert/calendar/detail.php?id=6120>

▼ROF《ギョーム・テル》が国際オペラ賞に落選！▼

メルマガ前号に、イギリスのオペラ雑誌が開催する国際オペラ賞（International Opera Awards）2014年度に昨年ROFの《ギョーム・テル》がノミネートされた、と書きました。実は「フェスティバル」部門のファイナリストにROF、「新制作」部門のファイナリストにROF《ギョーム・テル》が残ったのですが、蓋を開けるとどちらも落選し、「フェスティバル」はエクサン・プロヴァンス、「新制作」はザルツブルク音楽祭《ノルマ》が受賞しました。

前号に「ザルツブルク音楽祭《ノルマ》などの強敵がいますので、受賞するかどうかはビミョー」と書きましたが、予想どおりになってしまいましたね。

4月7日の結果発表と各部門のノミネート&受賞は、国際オペラ賞のサイトをご覧ください→

<http://www.operaawards.org/Winners2014.aspx>

（2014年4月15日 水谷彰良）